

「大台町の子どもたちのより良い教育環境を考える」

アンケート調査

調査結果報告書

【保育士・教職員】

令和7年12月

大台町教育委員会

目 次

1. 調査目的及び調査方法

(1) 調査目的

(2) 調査方法

2. 集計結果

(1) ご自身のことについて

(2) 町内の小学校について

(3) 町内の中学校について

(4) 今後の大台町立小・中学校について

1. 調査目的及び調査方法

(1) 調査目的

本町では、児童生徒数の減少や校舎の老朽化がみられ、将来に向けて町内の小中学校をどのようにしていくことが大切なのかを考えることが必要となってきました。

大台町立小学校の適正配置、子どもたちのより良い教育環境を検討していくため、令和7年度から「大台町立小学校のあり方検討委員会」を設置し、今の町の現状や小学校の状況を踏まえて検討を進めているところです。

また、中学校については、地域の方や保護者の方との懇談会を行いながら、今後について検討しています。

本アンケートは、大台町立小学校の今後のあり方について、皆様のご意見を検討委員会に届けるために実施いたします。

(2) 調査方法

① 調査対象：保育士・教職員

◆ 調査期間：令和7年7月14日から令和7年8月8日
(再周知) 令和7年9月1日から令和7年9月15日

◆ 調査対象者：保育士・教職員

◆ 調査方法：オンラインによる回答

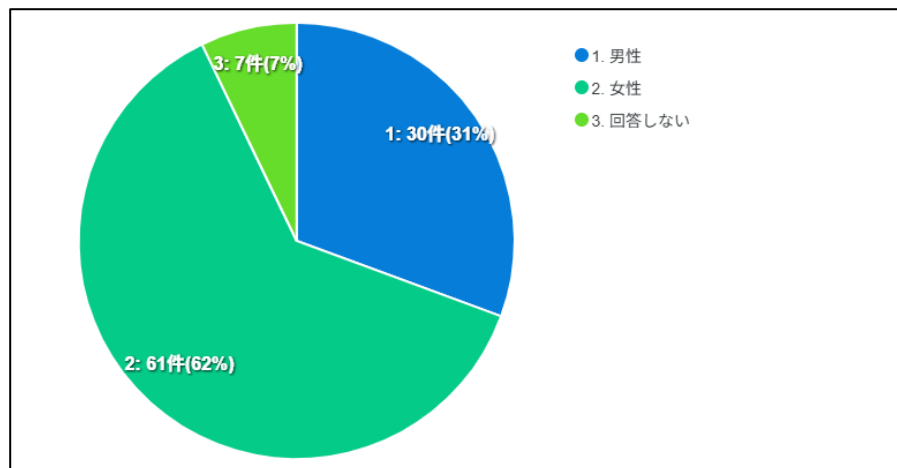
◆ 回収率：83.1% (配布118名、回収98名)

2. 集計結果

(1) ご自身のことについて

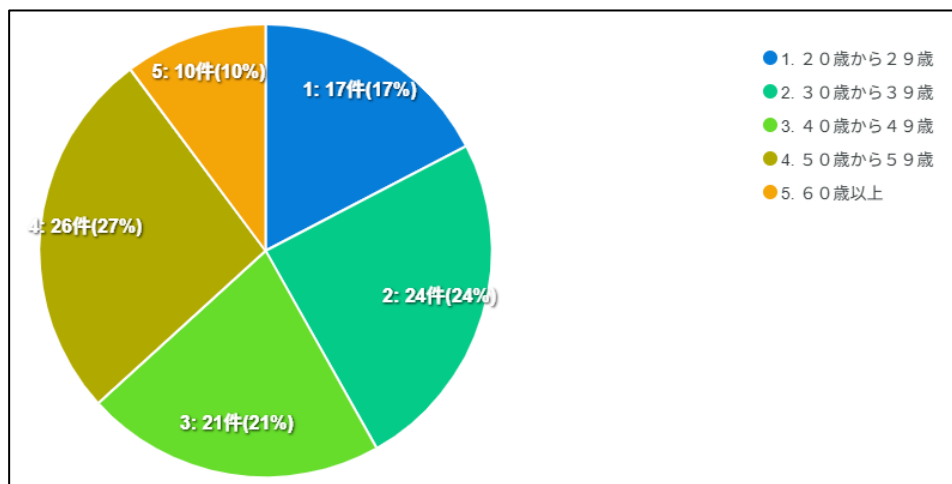
問1 性別

全体では、「男性」が31.0%、「女性」が62.0%、回答しないが7.0%となっています。



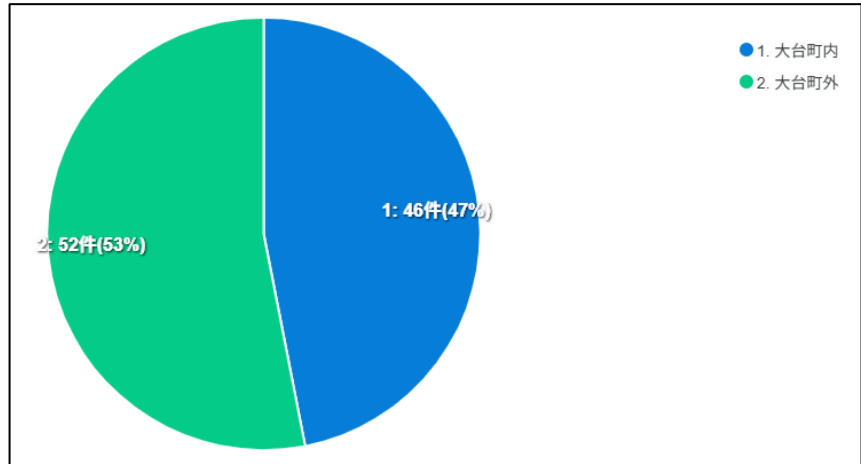
問2 年齢

全体では、50歳～59歳（26.0%）が最も高く、以下、30歳～39歳（24.0%）、40歳～49歳（21.0%）、20歳～29歳（17.0%）と続いており、60歳以上（10.0%）の割合が1番低くなっています。



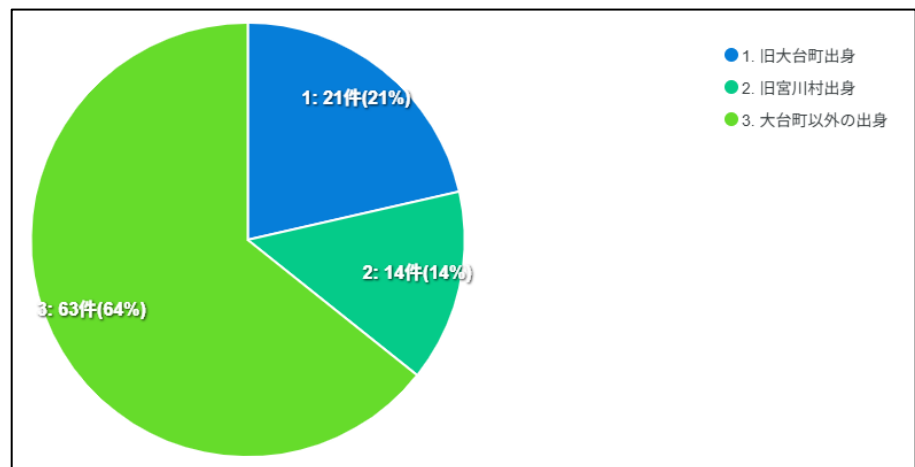
問3 住んでいる地区

全体では、大台町外（52%）が多くなっていますが、大台町内（47%）とほぼ同じくらいの割合となっています。



問4 あなたの出身地はどこですか。

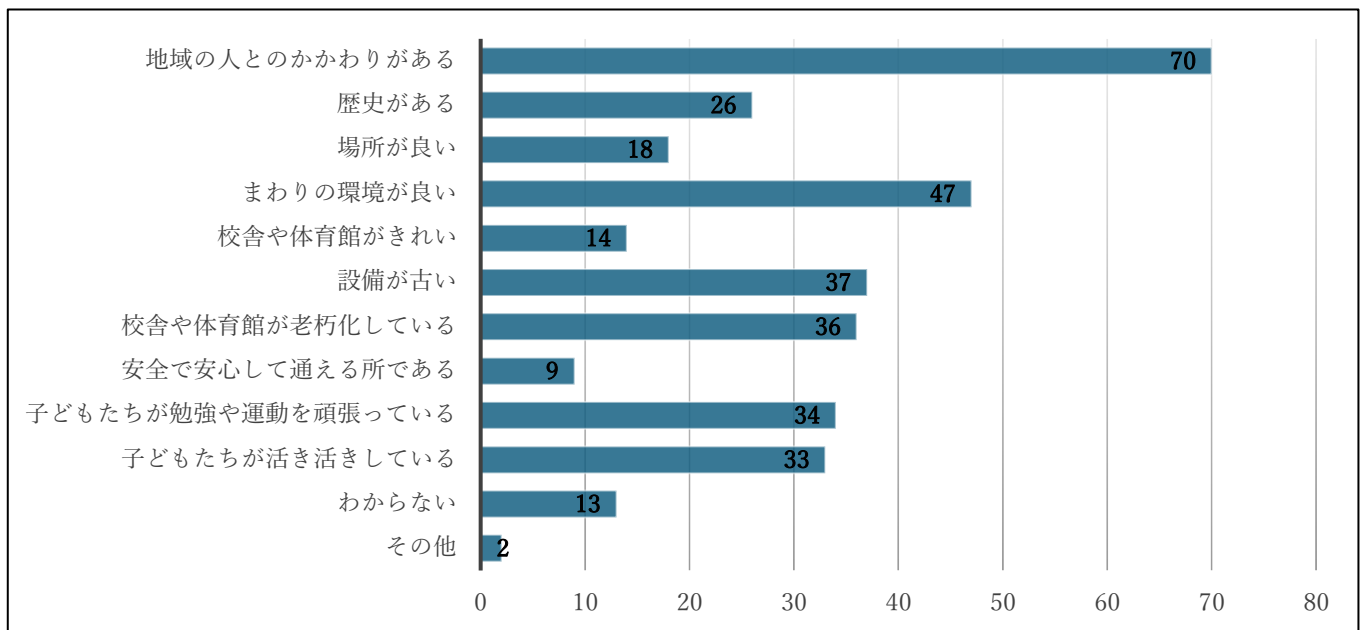
出身地で見ると、大台町以外の出身が 64%と 3 分の 2 を占めており、続いて、旧大台町出身が 21%、旧宮川村出身が 14%となっています。



(2) 町内小学校について

問5 あなたの勤務している地域にある小学校をどう思っているか。

アンケートを見ると、地域の小学校は「地域の人とかかわりがある」(70件)、「まわりの環境が良い」(47件)、「歴史がある」(26件)といった強みが目立ちます。子どもについても「勉強や運動を頑張っている」(34件)、「活き活きしている」(33件)という前向きな評価が多く、日々の学びや活動はうまくいっていると考えられます。一方で、「設備が古い」(37件)や「校舎や体育館が老朽化している」(36件)という指摘が多く、建物や設備の更新が急がれます。「安全で安心して通える場所」(9件)という回答は少なく、安全対策の見える化や通学路の改善などが課題といえます。また、「場所が良い」(18件)や「校舎や体育館がきれい」(14件)は意見が分かれており、学校による差がある可能性があります。まとめると、地域とのつながりと自然・歴史という強みを生かしながら、老朽化対策と安全面の強化を優先することが重要です。



■問5 自由意見

○小中間の連携が取れていないように感じる。

○行ったことがないためわからない。

問6 複式学級に対して、どのように思いますか。

- 複式学級で学習している様子を見学させてもらったことがあります。授業者の準備や授業中の動きなど、教員なら誰にでも出来ることではないと思いました。ここ最近は教員不足ですが、複式学級となるとさらに教員の確保が難しくなるのではないかと心配です。児童たちは、自分たちで学習を進めていたのですばらしいと思いました。それはそうするしか仕方ない状況があるので、出来れば複式学級は避けて、必要な時に繋がれるようにしていけたらなあと感じます。
- 2学年の授業を同時にするのはかなり難しい。授業準備の時間が足りるだろうか、不安に思う。
- なるべく複式は解消すべきと思うが、それを理由に学校統合を進めるべきではない。
- ひとつの学年で学ぶメリットが損なわれる。
- 学習面では、その学年に応じた学習ができるのか、子どもにも職員にも負担ではないかと思います。生活面では、いい刺激になるのではないかと思います。
- 学年をこえ、友達関係が形成出来る。
- 学力面に限って言えば、個に応じた指導が可能であることから、成果は期待できると思う。あくまで、教師の情熱と真摯な努力があることが大前提であり、時間をかけて教材研究や授業改善ができるかどうか、カギだと思う。この部分がクリアできるか、個人的には疑問ではある。反面、義務教育期間に小数の特定の人との関わりに限定されてしまうと、多様性や協働できる力を育むという点において難があるように思う。集団の中で揉まれ、衝突し、心折れる経験とそれを乗り越えようとする経験は将来の人生において、不可欠だと考える。総合的に判断すると、可能な限り、複式学級は避けるべきだと考える。
- 教員1人分の業務量など負担が増える。
- 教員の負担が大きいため、解消できる方法があるならば考えていくことも良いと感じる。
- 教師の負担がかなり多いことが懸念される。
- 教職員定数が減ることで、教職員の負担が増大するのではないと思う。
- 子どもたちが主体的に学習できる仕組みを研修で取り組んでいるので、子どもたちが意欲をもって学習できています。しかし、人数が少ない点においては、話し合い活動などで、多様な考えが出にくく難しさを感じられます。
- 児童への丁寧な対応が出来にくくなる。教員の負担が大きくなる。
- 児童数が少ないと、複式学級になるのは仕方のないことだと思う。ただ、人数が少ないから複式学級ではなく、配慮の必要なお子さんが一定数クラスにいる場合は、その支援をしっかりと考えてほしい。
- 上の学年が下の学年の手本になり子どもたちが成長していけたり、発言力が高まったりするなど、メリットも多い。しかし、授業中、指導者が直接指導できる時間が半分程度になるなどのデメリットも多い。

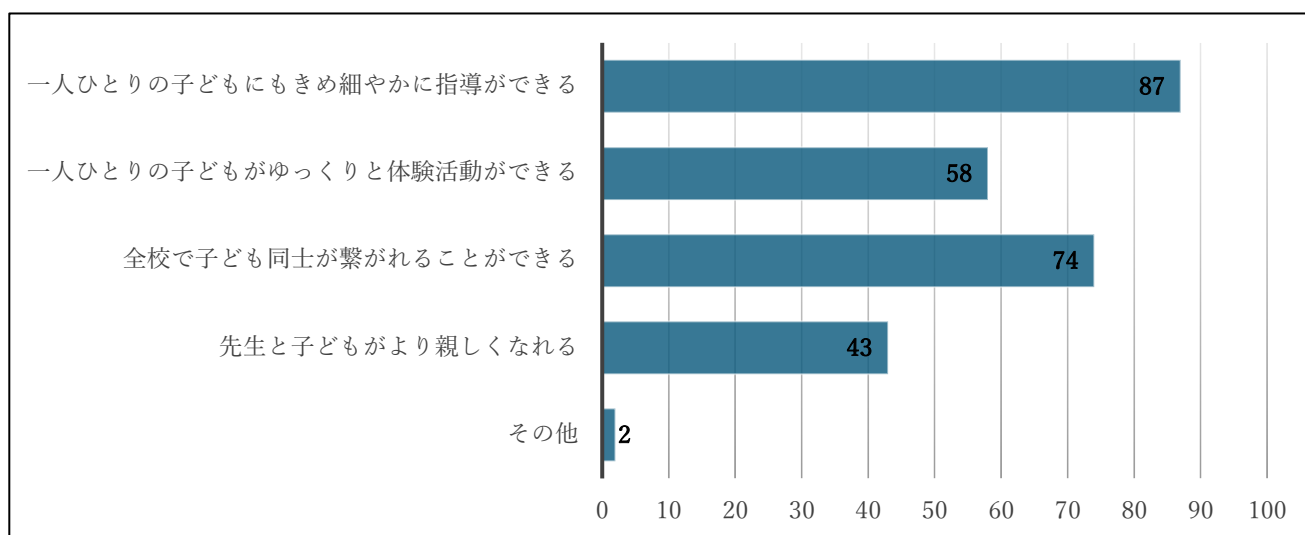
- 自分自身も複式学級を経験してきました。複式学級に対するマイナスイメージはなく、学年が違う子が一緒に居たことで学びになることもあったでしょうし、上下としての繋がりよりも、横の繋がりが濃くなり上級生、下級生分け隔てなく親しみを持ちやすかった。また学力に関してはその子自身の勉強に対する気持ち・姿勢次第かなとも思うので複式学級でも問題ないかなと感じます。
- 人数が少なくなっているのでもいいと思う。私自身複式を経験しているが、特にマイナスイメージはない。
- 人数が増えるにこしたことは無いが、地域に学校があることは、地域に元気を与えてくれます。
- 担任が2学年分の教材研究をして授業準備をしなければならないのが大変であるが、複式学級で学ぶことで子どもたちは自主的な学びの力がついており、複式の良さも感じている。
- 担任の先生が2学年分の仕事をするので、業務内容も2倍になり、大変になるとおもう。(教科指導、学級事務、行事など)
- 二つの学級が一緒に学習するということでお互いに学び合えたり、教え合えたりできるということで複式学級の良さはたくさんあると思いますが、教員の負担は正直かなり大きいです。学力をつけるように日々努力しているつもりですが、やはり単学級の方が学びの見届けができたり、卒業前、入学後にその学級の児童に集中して指導ができるというメリットがある気がします。
- 複式の特色を生かした教育を地域の学校として進めていくべきである。
- 複式学級がいけないというわけではないが、遊んだり考えあったりするのに、ある程度の人数はほしいと思う。
- 複式学級で、先生の数が減って十分な教育が受けられないのではと心配する。しかし、学校間の交流を行うなどの方法をとって、きめ細やかに学べたら良い。大規模校とは違った学びを模索していけば良い。しかし、その為には教職員数を確保してほしい。子どもが少ないからと、基準に合わせるのではなく、町からの教員派遣など工夫をしてほしい。
- 複式学級では1限の授業内で2学年にわたる内容を1人の先生が指導する。指導する内容自体は変わらないため、単式学級に比べて詰め込みがちになると思われる。AB年度方式であれば単式と同じ密度で授業を進められるが、年度によって複式学級が異なる現状においては不都合が生じるため採用しにくい。少人数であればきめ細やかに指導ができると思われがちだが、複式学級においてはそれが難しいように思う。補助教員や支援員などの増員は必要だろう。
- 複式学級で学んだ子どもが、学力面で不利な状況となることはないです。むしろ、潜在能力が高く、優秀な子どもが多いと感じます。ただ、教える側の力量が必要であり、経験を積んだ教員をそろえるのは困難であると思います。
- 複式学級にすることにより、各々の授業に影響を与えてしまわないか心配。通常学級との遅れはないのだろうか。不安しかない。
- 複式学級については、様々な良い点と悪い点があると思います。学校は、住民にとっては大切な場所なのでなくなることないようにしていくのが良いと思います。

- 複式学級は、教員の負担が大きい。できれば、複式学級解消加配などを付けてほしい。
- 複式学級は、先生方の授業の準備等、苦勞が多いのではないかと思う。子どもたちにとっては、デメリットばかりではないかもしれないが、同学年で学習できる環境が1番だと思う。
- 複式体制は教員の負担が大きい。異学年の学び合いなど期待される面もあるが、教職員1人が担う役割や仕事が多くなることは、結果的に子どもに影響する。

問7 少人数の学校または学級のメリットは、どのような事が考えられますか。

アンケートから、少人数の良さは大きく三つにまとまります。第一に学習面です。「一人ひとりにきめ細やかに指導できる」(87件)が最多で、先生が子どもの理解度に合わせて教えやすい点が強く支持されています。第二に人間関係です。「全校で子ども同士がつながれる」(74件)と「先生と子どもがより親しくなれる」(43件)が挙がり、学年間の交流が生まれやすく、安心して相談できる関係が築けることが評価されています。第三に学びの体験です。「一人ひとりがゆっくり体験活動できる」(58件)とあり、調べ学習や自然体験などを自分のペースで深められる点が魅力といえます。

総じて、少人数は「分かるまで学べる」「みんなとつながれる」「自分のペースで試せる」という良さがそろっており、学力だけでなく自信や思いやりといった力の育成にもつながると考えられます。



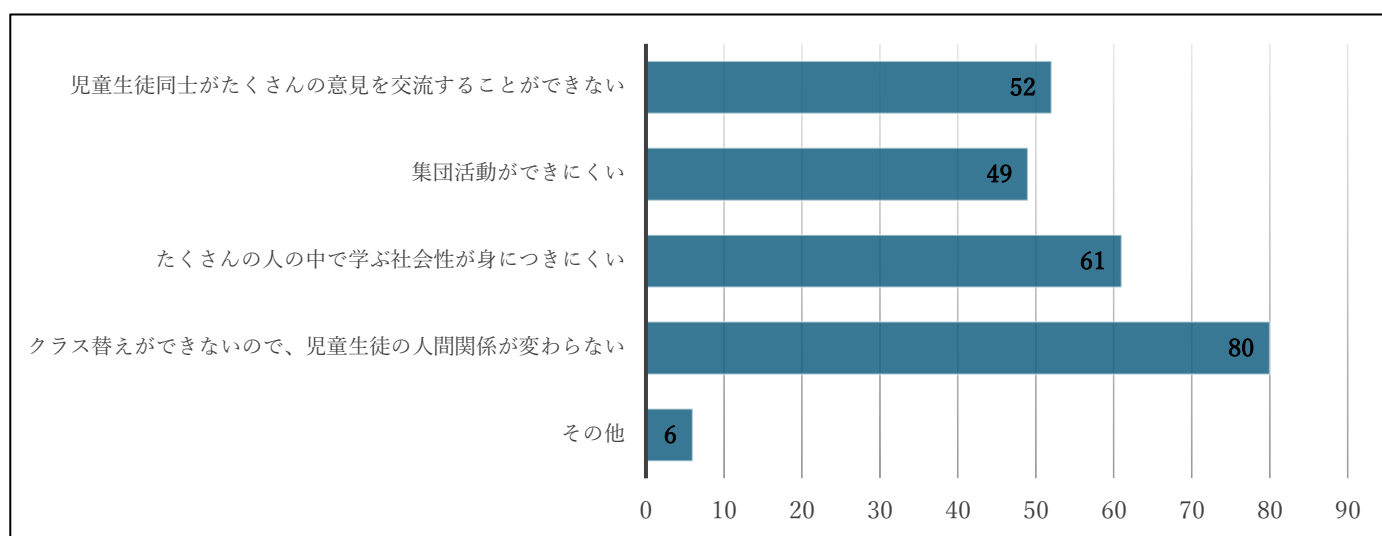
■問7 自由意見

○互いをよく知れる機会となる。

○地域の方とのつながりがよりもてる。

問8 少人数の学校または学級のデメリットは、どのような事が考えられますか。

アンケートでは、少人数の学校・学級の一番大きな悩みは「クラス替えができず、人間関係が固定される」(80件) ことでした。次に多かったのは「大人数の中で学ぶ社会性が育ちにくい」(61件) で、さまざまな考え方や役割にふれる機会が少ない点が心配されています。さらに「意見を交わす相手が少ない」(52件)、「集団活動がしにくい」(49件) という声もあり、話し合いの広がりや協力して取り組む経験が限られやすいことが分かります。つまり、少人数には丁寧に学べる利点がある一方で、関係が固定され、多様な人との交流や協働の機会が不足しがちです。対策としては、学校間の交流、合同授業、オンラインでの協働学習など、外部とのつながりを計画的に増やすことが有効です。



■問8 自由意見

- 壁に当たるとか心折れるというような、社会に出たら誰もが経験するであろうことが、義務教育期間に経験できない。
- 人間関係の構築にあたり、多数との関係づくりが難しい。また、思い込みや固定概念が変わりにくい。
- 意見交換は、ズーム等を利用してできる。集団活動も年間計画に入れて、他校と交流できる。
- 指導・助言は行き届きますが、あえて批判的に意見を交わしたい学習では限界があると思います。仮に、人間関係がうまくいかないことが生じたら、うまく乗り越えるには、かなりの取組、保護者との連携が必要で、修復不可能となれば逃げ場がありません。逃げ場がありません。
- 子ども1人が担う役割が多くなり、成長の機会が増えるよい面もあるが、あまりにも人数が少なく、その負担が担えない、大きすぎるためにうまくいかない子や学年もある。
- 2人だった場合、1人が休むと授業を進めたり、校外学習を実施したりすることが難しい。刺激が少ない。馴れ合いになる。揉まれず鍛えられない。規範意識が薄れる。

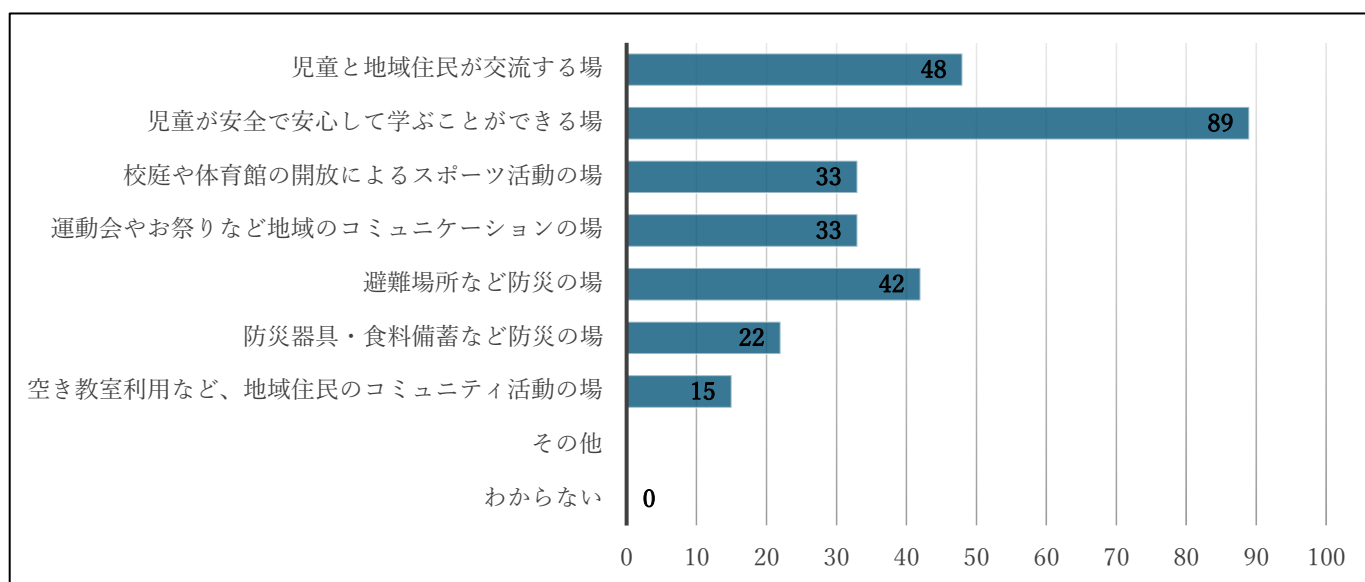
問9 あなたの地域にある小学校の役割として、どのようなことをお考えですか。

アンケートでは、「子どもが安心して学べる場」が最も多く（89件）、小学校の第一の役割と考えられていることが分かりました。

次に多いのは「地域との交流の場」（48件）で、行事や日常の関わりへの期待が見えます。校庭や体育館の開放による「スポーツの場」（33件）や「運動会・お祭りなど地域の集まりの場」（33件）も同程度に支持されています。さらに、「避難場所」（42件）や「備蓄」（22件）など、防災拠点としての役割も大切にされています。

一方、「空き教室の活用」（15件）は数が少ないものの、今後の工夫次第で地域活動に広がる余地があります。

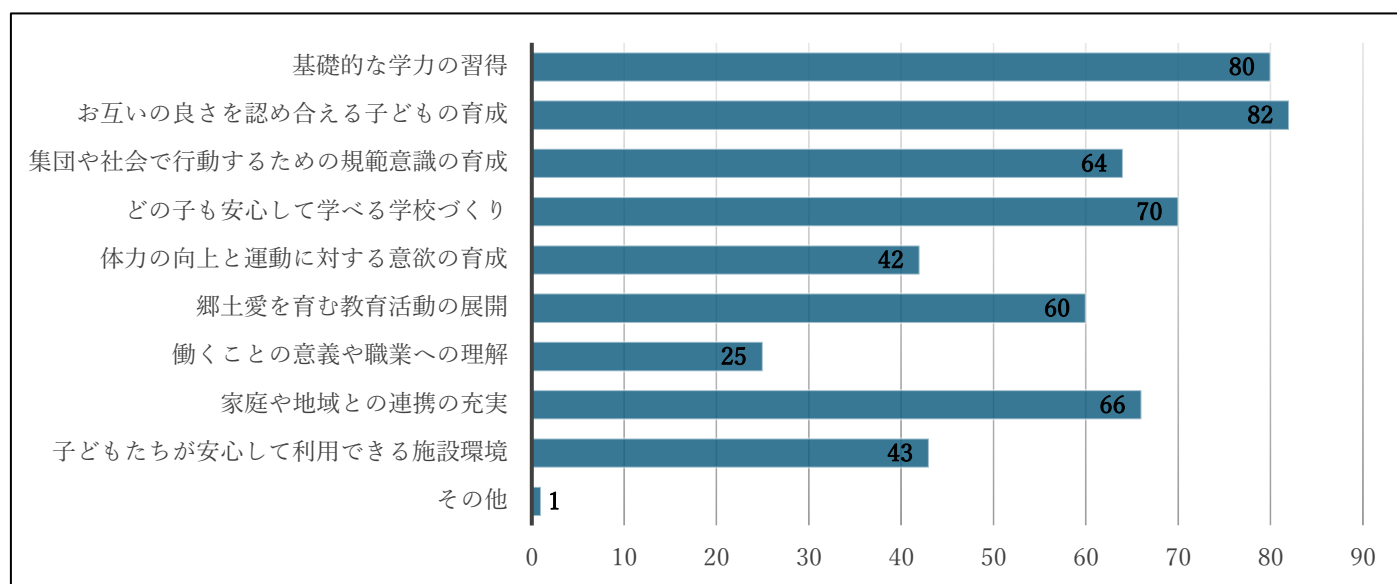
まとめると、小学校は学びの場を土台に、交流・防災・健康づくりを支える地域の中心として期待されています。



問１０ これからの大台町立の小学校教育において、大切だと思われることは何ですか。

アンケートを見ると、これからの小学校に求められているのは、学力だけでなく、人を大切にする心と安心して学べる環境です。最も多かったのは「互いの良さを認め合う子の育成」(82 件)で、「基礎学力の定着」(80 件)、「安心して学べる学校づくり」(70 件)、「家庭・地域との連携」(66 件)、「規範意識」(64 件)、「郷土愛」(60 件)が続きました。一方、「体力・運動」(42～43 件)や「職業理解」(25 件)はやや少なめです。

まとめると、確かな学力を土台に、思いやりやルールを身につけ、地域とつながりながら、安心して学べる学校をつくることが重視されています。



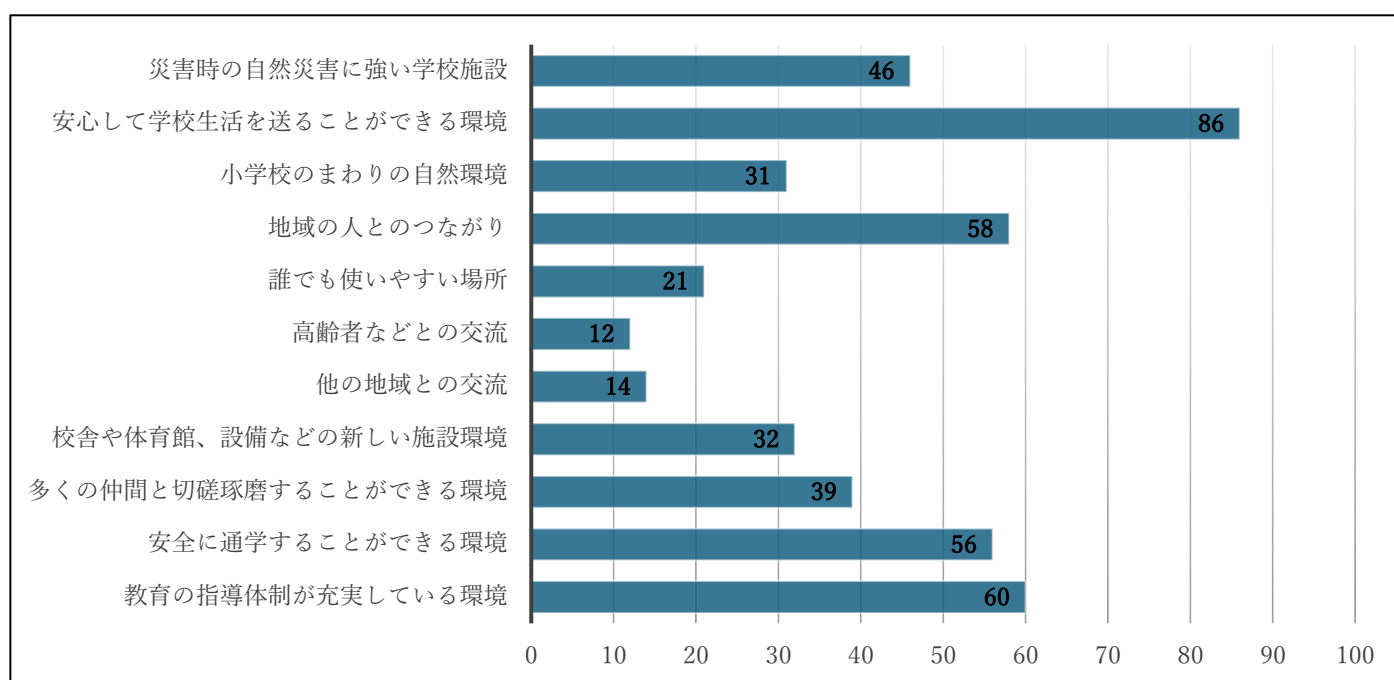
■問１０ 自由意見

○将来を見通し、小規模校であっても、手をかけすぎないこと。(行き届くが、過剰になる場合がある。)

問11 子どもたちのより良い教育環境を考えた時、特に大切にすべきと考えていることは何ですか。

アンケートでは、最も多かったのが「安心して学校生活を送れる環境」(86件)でした。次いで「教育の指導体制が充実している」(60件)、「安全に進学できる」(56件)、「地域の人とのつながり」(58件)が続き、子どもが安心して学べること、教える体制の充実、将来への見通し、地域との協力が特に重視されています。さらに、「災害に強い学校施設」(46件)や「多くの仲間と切磋琢磨できる環境」(39件)、「新しい校舎や設備」(32件)も支持があり、安心・安全を支える施設や学びの機会の充実も必要です。「自然環境」(31件)、「誰でも使いやすい場所」(21件)、「他地域との交流」(14件)、「高齢者との交流」(12件)は少なめですが、町の特色や多様性ある学びに欠かせない要素です。

全体としては、まず安心・安全を土台に、指導体制を強化し、地域や仲間とのつながりを広げ、災害への備えと施設整備を進めることが鍵です。

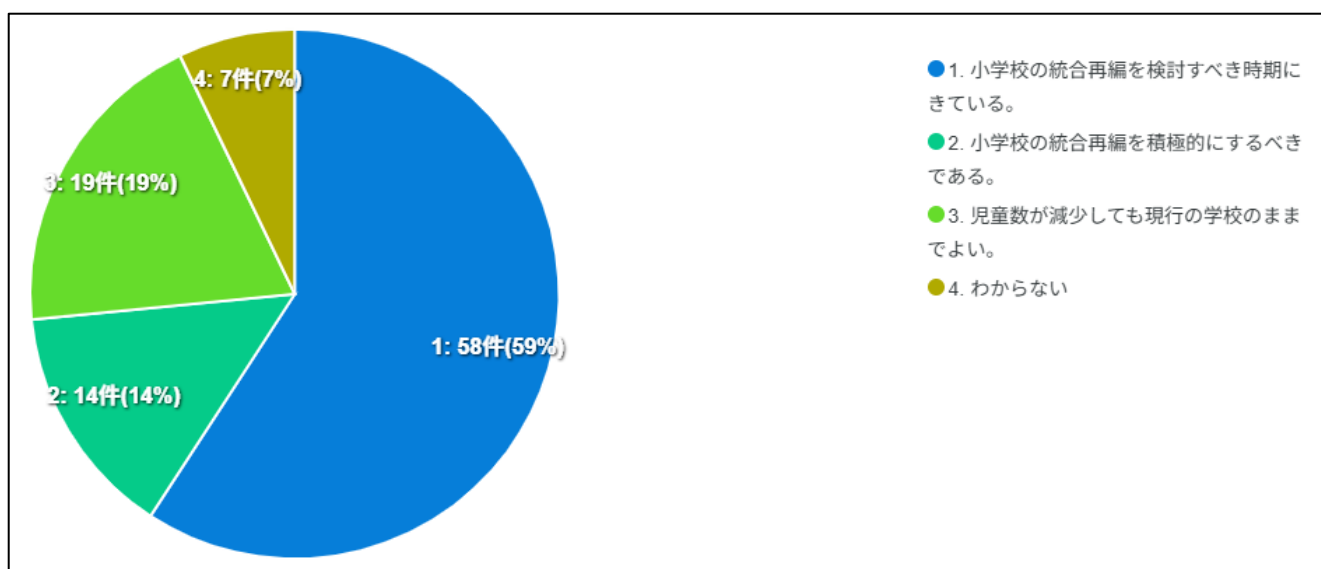


問１２ 町内の小学校の児童数が減少しています。児童数の減少への対応として望ましいと思われるものはどれですか。

アンケートでは、児童数の減少への対応として「統合再編を検討すべき」が 58 件、「積極的に進めるべき」が 14 件で、あわせて 72 件と多数でした。

一方で「今のままでよい」が 19 件、「わからない」が 7 件あります。多くの人は、学級や先生の体制を安定させ、子どもの学習機会を確保するために、統合の必要性を感じています。維持や迷いの声には、通学距離の伸び、地域のつながりの弱まり、学校の良さが失われる不安が見えます。

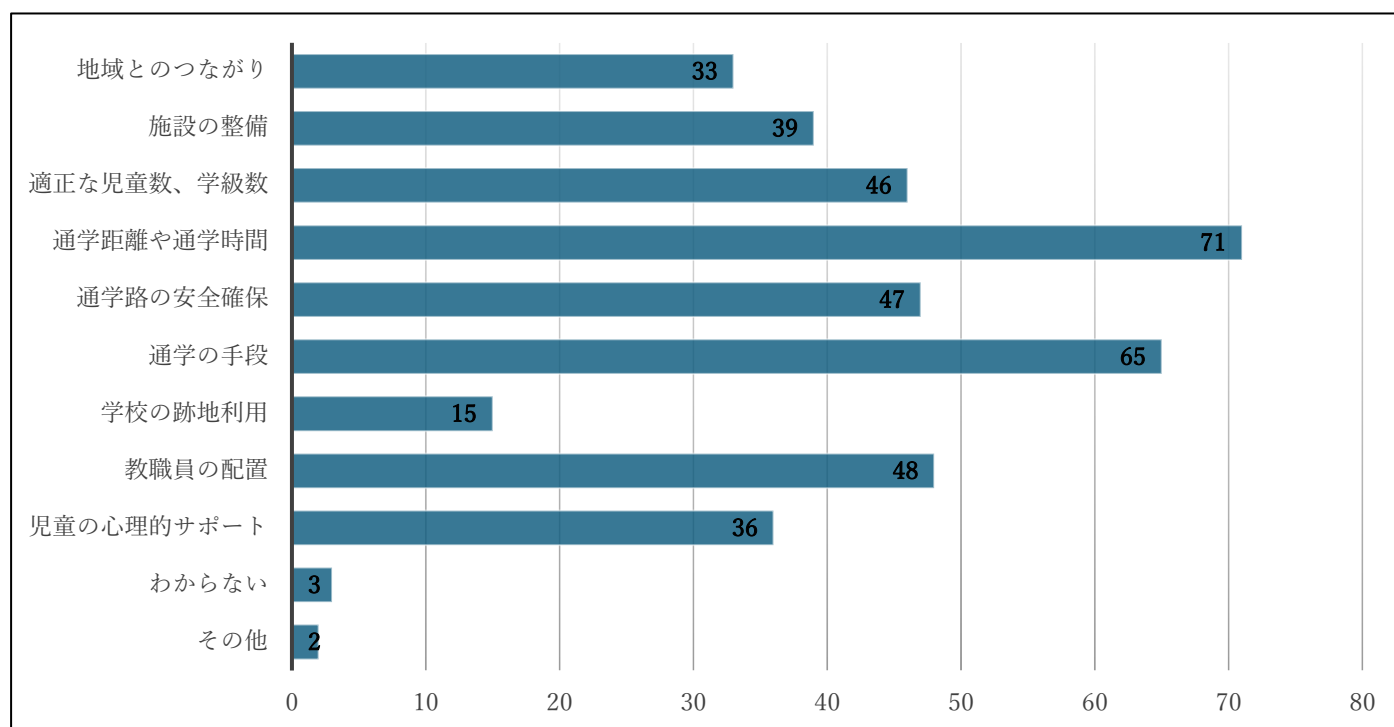
今後は、スクールバスなどの通学支援、小規模校の良さを活かす工夫、段階的な進め方など、具体策を示しながら丁寧に説明し、納得づくりを進めることが大切です。



問13 もしも小学校が統合再編されとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

アンケートでは、統合を考えるときに「通学の負担と安全」を最も重視する声が多く寄せられました。とくに通学距離・時間（71件）、通学の手段（65件）、通学路の安全（47件）が上位です。次いで、学びの質に直結する「適正な児童数・学級数」（46件）や「教職員の配置」（48件）への関心が高く、手厚い学習環境を望む姿が見えます。施設の整備（39件）や子どもの心のケア（36件）も重要視されています。一方、地域とのつながり（33件）や跡地利用（15件）は相対的に少ないものの、無視はできません。

まとめると、統合を進めるなら、まず通学の負担を減らし安全を確保すること。そのうえで、適正規模の学級と十分な教職員配置、施設整備や心理的サポートを一体的に進めることが大切です。



■問13 自由意見

○コミュニティスクール（学校運営協議会）の設置。

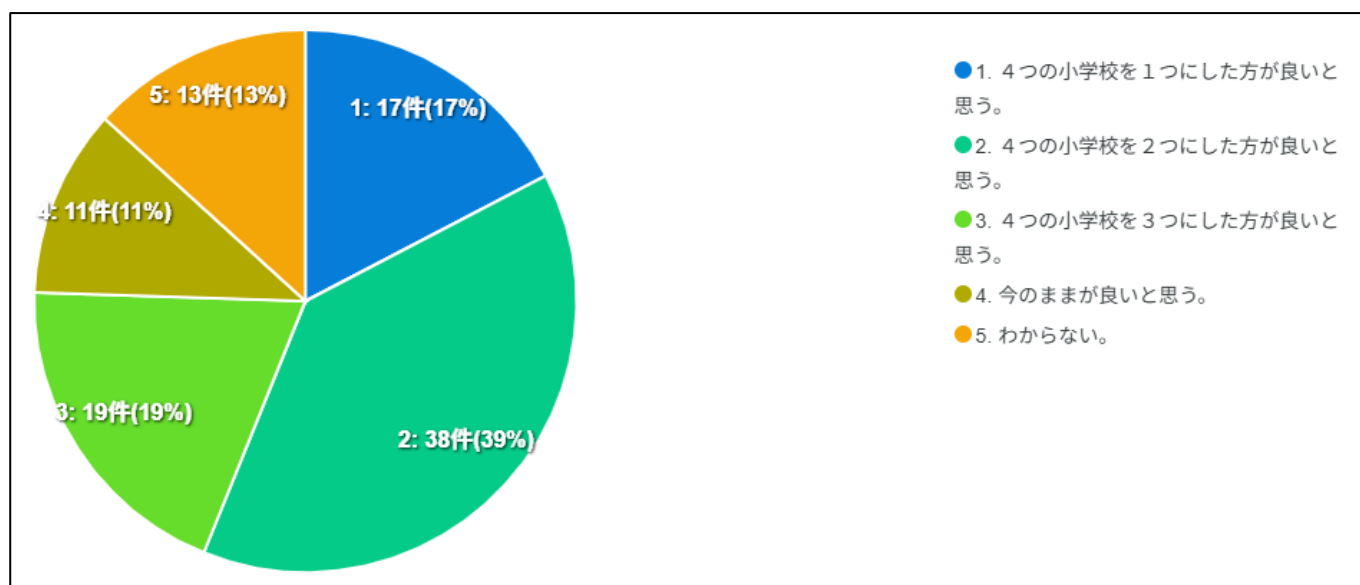
○統合したことによるメリットを生かした学力向上、人権教育の推進。

問14 もしも小学校が統合再編されとした場合、大台町全体のことを考えた時や通学距離などを考えた時、現在の4小学校をどのように統合再編することが望ましいと思われますか。

アンケートでは、多くの人が小学校の統合に前向きでした。最も多かったのは「4校を2校にする」38件で、通学距離や地域のつながりに配慮しつつ、教育の充実もねらえる現実的な案と考えられます。「3校にする」は19件で、段階的な統合を望む声といえます。

「1校にする」は17件で、教育資源の集中を評価する一方、通学が長くなる不安から多数派にはなっていません。「今のまま」は11件と少数でした。「わからない」は13件あり、通学手段や安全、学校規模などの具体情報が不足していることが理由と考えられます。

結論としては、「2校案」を中心に、スクールバスや学区の設計、部活動や特別支援の体制などを具体化して検討を進めるのがよいでしょう。



問15 Q14で選んだ理由を教えてください。

（4つの小学校を1つにした方がよいと思う）

- 1学年50人で2学級と考えた場合、全校児童が300人。大台町では、本年度の小学生が300人弱で5年後には約220人とのこと。統合再編で数校にしたところで、すぐにまた複式学級ができるようでは、同じことの繰り返しだと思います。なので、もうはじめてから1つに統合再編し、新しい歴史をスタートさせた方がよいのではと思います。
- 確実に子どもが減っている中で、苦渋の選択。できれば、地域の中に学校があればいいが、今後、出生率が上がるとは思わないから。
- 宮川だけ統合しないという考えもあるが、宮川も人数が減ってきていると思うので、今後のことを考えると、一校にする方がよいのではないかと考える。
- 旧宮川地区と旧大台地区の二つの学校も考えられるが、宮川小1校では、今後、複式学級が増えることになるため、通学時間に課題はあるが、1つにまとめていく方がよいと考える。
- あくまで、通学時間と通学方法さえクリアできればという条件付きではあるが、義務教育の本質や学校の存在意義は、多くの多様な生徒と学び合うことにあると考えるから。
- 設備維持費をおさえ、その分子どもたちに還元できるから。
- 施設の維持費等を考慮すると、一つにまとめた方がよい。しかし、学校を残してほしいと住民の願いもある。説明会を重ねて、理解してもらう必要がある
- 児童の人数増加が今後見込めない場合、2校や3校で統合したとしても、いずれ児童数が減少して、更なる統合が必要になってしまうのなら、最初から4校を1校に統合した方がよいと思いました。
- 児童の人数や、教職員定数などを考えると、1つの小学校にしたほうがよい。
- 災害にも対応でき、少子化から生徒は少なくなっていくので一つにし、みんなが交流できたら良いと思う。
- 通学距離を考えると、2つにした方がよいが、今後の子どもの数を考えると1つにした方がよいと思う。
- 児童数も減っている中、人数の少ない中での成長より、人数が多い中で切磋琢磨してほしいから。
- 少し先の事を考えると、1つか2つで迷うところではあるが人数がかなり減っていくため。
- 中学で一校になるなら、小学校のうちに一緒になってもよいと思う。

（４つの小学校を２つにした方がよいと思う）

- 小学校時代に、子どもが徒歩通学することの意義を、よく考えることが必要だと思います。歩きながら、自然に触れたり、危機回避能力を身につけたり、体力をつけたりすることができます。それらは、一生の力になります。長すぎる通学時間は、知らず知らずのうちに子どもを追い詰め、成長に悪影響を及ぼすことがあると思います。子どもには、ゆったりとした時間が必要だと思います。
- 人数を重視すると１つ、距離を考えると２つにしたほうがよいと思う。
- 宮川小は、距離があるので、そのまま。川添と日進と三瀬谷は、大台中で一緒になるので、反対ですが、仕方ないと考えます。
- 通学距離と通学時間を考えて。人数から考えたら、４つを１つにしたいところだが、現実的に考えて選択した。
- どれくらい先までの視点で考えるかにもよるが・・・。１０年程度の期間は、旧大台町で１小１中。旧宮川村は、小中一貫校、もしくは義務教育学校として存続させる。
- 宮川の大杉谷地区の子どもがいる場合、旧大台地区の小学校に通うのは、時間がかかり子どもに負担が大きすぎると思う。
- 人数の少ない川添と日進をまず一つにして、三瀬谷に宮川を合わせるのがよいと思うが。３０人学級にならないように、２５人程度にまとめた方がよいので、配置は難しいと思う。
- 新しいものは建てず、今ある小学校を活用し、通う距離を考えて、まずは２つにし、次に、１つにしていく方がよいと思うから。その際、新しい校舎を建てればよいと思う。
- 児童数を考えると１校にするのがよいが、通学距離や時間を考えると２校がよい。
- 今の人数だと３つでもいいかと思うが、近い将来、さらに人数が減って２つになるなら、初めから二つにしまってもいいと思う。
- 宮川地域の子どもたちは、通う距離が遠くなるので、宮川は、宮川小学校として残してもいいのではと思います。
- 今後も人数が減少する具合を考慮して考えたが、校区の範囲も考えると難しさもある。
- 一つの学校にするには、校区が広すぎるので、とりあえず、２校でスタートしたらいいいと思う。
- このまま児童生徒数が減少していくことを考えれば、１つにするのが合理的ではあるが、大台町内の学校の分布は、縦に長く位置しており、距離を考えると現実的ではない。もし、統合するのであれば、隣接する２校を１つに統合する（４つの小学校を２つにする）のが良いと思われる。
- 現在の４つの学校で、今後も運営するのであれば、今後は、クラスの人数がさらに減少すると思われます。ある程度の人数がいるから経験できることが、あまりにも少ないと経験できないと思います。地域から学校がなくなるのは、寂しいと感じますが、子どもたちが過ごしやすい環境を作ってあげることも大切だと思います。
- 統合するにしても、通学距離や地域の特性を考えると、旧大台と旧宮川で２つがよいのではないかと考えます。
- 宮川・三瀬谷地区と川添・日進地区では、距離が離れすぎているため。
- 校区が広いため、通学距離を考えると２つにしたほうがよいのではないかと。

- 宮川地区から日進地区まで広範囲であるので、通学が大変。2つにした方がいいかと思う。宮川・三瀬谷と川添・日進の2つ。しかし、宮川の大杉地区の通学時間が・・・とは思いません。
- 宮川小学校は、他の3校との校区の距離が長いので、1つの学校に統合したときに、宮川小学校の児童の登校距離が懸念材料になると思ったから。
- 通学距離から、4つの小学校を1つにすることは、時間もコストもかかり現実的ではないと考える。複式学級の学校があることやこれからも生徒数が減少していくことから、統合は視野に入れる必要があるが、通学距離の関係上、宮川・三瀬谷と川添・日進の統合が良いのではないかと。
- 1つにしてしまうと、校区が広くなり過ぎてしまい、通学において子供達に負担がかかるのではないかと。
- 適正な規模の実現及び近付けるために、統合再編が必要ではあるが、日々通学する児童生徒の通勤時間・通勤距離考えると、旧大台町、旧宮川村の2校が望ましいと考えるため。
- 通学を考えると、宮川地区と大台地区を統合すると、児童、保護者の負担が大きいのではないかと。

(4つの小学校を3つにした方がよいと思う)

- 今、中学校が2つである。同じように、2つの小学校に再編すると、同じメンバーで9年も過ごすことになる。今の宮川がそうである。大規模であれば、クラス編成などで、人間関係の固定化を防げるが、小規模では難しい。せめて、小学校3校にしてはどうかと思う。
- 宮川地区と三瀬谷地区では、やはり距離的に通学バスの乗車時間を考えると、子どもたちの体力的にも大変ではないか。川添小は、今より少し増えるようであるが、その後の減少した時に合流できるよう考えておくべきではないか。
- 大台町の日進地区(千代方面)から宮川地区(大杉方面)までということを見ると、通学距離からして、一つに学校を統合することは極めて難しい。特に、低学年のうちは、体力、友だち同士で遊びやすい距離などを考えると、近くの学校の方がいいと思われる。そのため、可能な限り近くの小学校に通えるように、まずは3つの統合から考えていった方がよいと思ったから。
- 町内の広さを考えると、上・中・下の3つ区分があっても良いのかと思いました。
- 地域的なことを考え、栃原、三瀬谷(川添)、宮川の三ヶ所にそれぞれ小学校は必要だと思うから。
- 宮川地区(真手より奥)が、三瀬谷地区に通うことが、時間的にも距離的にも難しい。川添地区の複式学級が、毎年いくつかあること、多かった三瀬谷地区の人数減少など考えると、統合は考えていかなければいけないが、4つある小学校を、1つや2つにするのは難しいと思う。将来的に2つとなっても、すぐには難しいと思う。
- 今のままだと思うが、教師の負担等を考えると、統合も必要ではないかと思う。
- 宮川小は、統合するには、距離が遠いため現状のまま。川添小を、日進か三瀬谷と統廃合する時期に来ている。
- 今後の児童数の推移を考えると、行政的には、1校に統合した方が予算削減にもなり効率的だが、学校は、地域活性化のひとつの要素であり、学校がなくなると、地域の衰退につながっていくと思われるので、安易に統合しないほうが良いと思う。ただ、川添小の児童数は激減しており、三瀬谷、もしくは日進との統合を考えていかざるをえないと思う。
- 宮川地区の子は、もし、三瀬谷小と統合した場合、片道、バスでも1時間かかる子がいると聞いたことがある。それは、あまりにも大変なので、日進と川添が統合し、三瀬谷、宮川は、独立した形がベターなのかなと考える。
- 宮川と日進の距離などを考えると、1つ、2つにするのは、難しいと思う。
- 川添小は、日進小と統合し、三瀬谷小と宮川小を現場のままだがよい。

(今のままがよい)

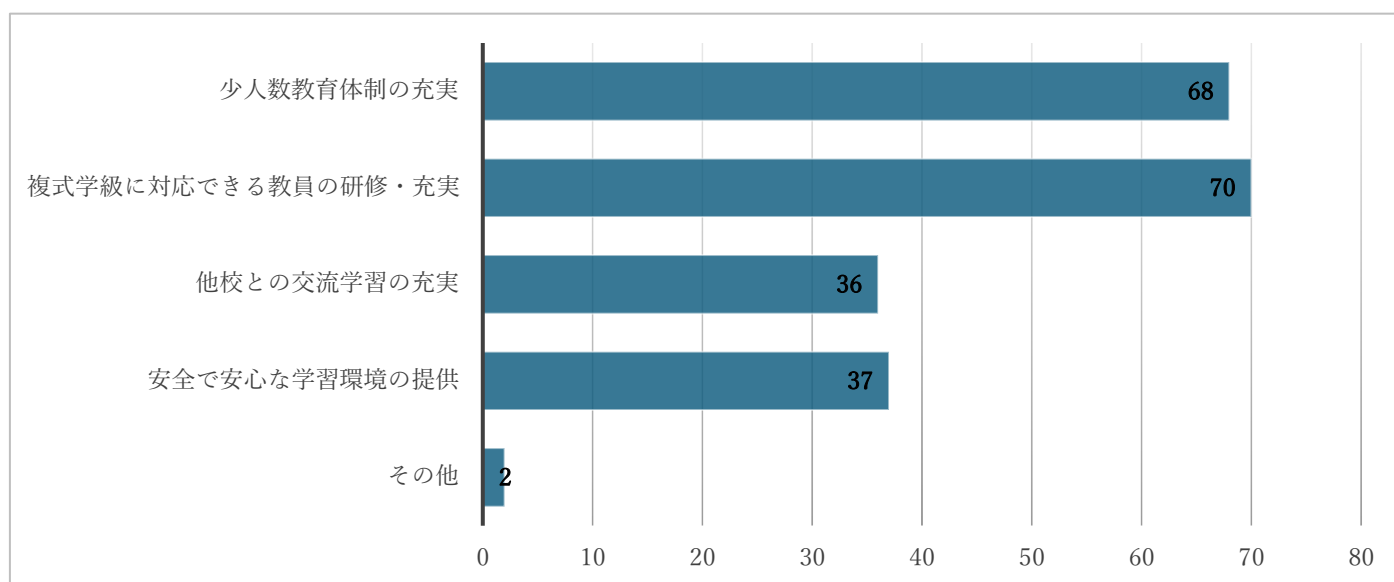
- 小学校が地域、高齢者等の交流の場となっているため（小学校区単位）、現状の体制が良いと思う。統合すると、通学距離が増えるため、児童の負担となる。小規模校の良さを伸ばしていったら良いと思う。
- 児童減少を食い止めるための施策の進み具合を検証することが先決であるから。もっと、大台町に移り住みたいと思う人を増やすため、何ができるか町をあげて取り組むことが必要なのではないか。
- 地域から学校がなくなっていくと、さらに地域が活気を失う。小規模でも学校を地域に残す方が良いと考える。
- どこを合併しようとも通学距離が負担になることには変わらないため。
- 各小学校は、児童数の大幅な減少がなければ、このままでいいと感じる。
- 大杉方面など、現在でも通学に時間を要している児童がいるなか、これ以上遠方の学校への通学は児童・家庭双方への負担が大きいうように感じる。
- 生徒に、一人一人の安全や教育環境の変化を与えることがないから。
- バス通学は低学年児童には身体的・精神的に負担が大きく、登校意欲や学習意欲に影響を及ぼす可能性があると考えられるから。統合により、生まれ育った土地への愛着が希薄になり、過疎化はさらに進行することも考えられるから。
- すでに一つ一つの学校が離れているため、さらに統合再編するとほとんどの子どもたちがバス通学になり、乗り遅れたりした場合は保護者がその都度送っていくことになる。在宅の保護者ならいいが、すでに仕事に出ているなどの場合連絡が取れずに困る。また、避難場所になっている学校がなくなるのは不安。

(わからない)

- 今後の人数減を考えて、始めから1校にしておいた方が良いと思うが、大台町の中に学校を建てるとなると、宮川になるのでしょうか。しかし、災害なども考えて、三瀬谷辺りに学校があると良いのではないかと思います。
- 大台町における勤務が浅いため、学校や地域の実情をしっかりと把握していないため。
- 町内に在住しているものではないので、簡単に答えられない内容だから。
- 地理的に広すぎる。少人数のままでよいとは思わないが、大杉の子達の不利をどう改善できるか、よい方法が考えられない。
- 各学年ある程度の人数がいる方がいいと思うと4校統合がいいと思うが、校区が広すぎるので、通学面の条件整備が整えられるかわからないから。
- 小規模校の良し悪し、統合することの良し悪し、色々あると思うから。

問１６ もしも小学校が統合再編されずに現行のままとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

ご提示のアンケート結果を見ると、現行のまま小学校を続けるなら、まず「先生の指導力を高めること」が最重要です。とくに複式学級に対応できる教員研修が最も多く求められており、多学年を同時に教える工夫や教材づくりの力を伸ばす必要があります。次に、少人数教育の良さを生かすため、加配やチームティーチングなどで一人ひとりに合った学びを充実させることが挙げられます。また、安全で安心して学べる環境づくり（通学や施設の点検、ICTの適切利用）を着実に進めることも重要です。さらに、他校との交流学习は件数は少なめですが、少人数では得にくい多様な人との関わりを補う効果があり、計画的に取り入れる価値があります。



■問１６ 自由意見

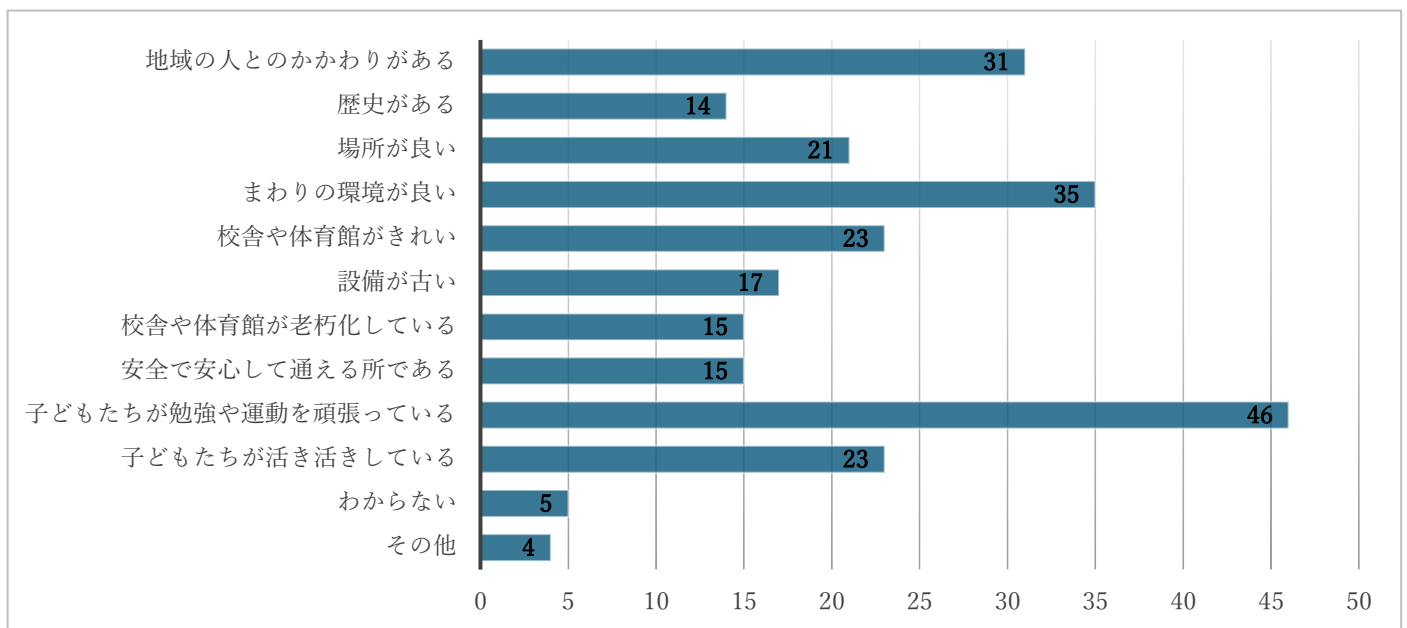
○地域とのつながりを大切にして、大台町の素晴らしさを軸にした教育の推進

○複式学級に対応できるのではなく、教職員数を増やすこと。他校との交流や、学力保障を考えると今のままの人数では少ない。また、支援の必要な子どもが増えてきていることから、正規の教員を保证することが必要だ。

(3) 町内中学校について

問17 あなたの地域（勤務されている地域）にある中学校をどのように思われていますか。

アンケートを見ると、一番多かったのは「子どもたちが勉強や運動を頑張っている」(46件)で、次いで「まわりの環境が良い」(35件)、「地域の人とかかわりがある」(31件)が続きます。生徒の姿勢と、自然や地域とのつながりが大きな強みです。「校舎や体育館がきれい」(23件)、「子どもたちが生き生きしている」(23件)、「場所が良い」(21件)も評価されています。一方で、「設備が古い」(17件)や「校舎や体育館が老朽化している」(15件)という指摘があり、施設の更新が課題です。ただし「安全で安心して通える」(15件)という声もあり、通学面の安心感は保たれています。全体として、生徒の頑張りと良好な環境・地域連携は強みで、老朽化への対応や学習・運動設備の改善を進めることで、さらに良い学校づくりが期待できます。「わからない」(5件)は、学校の情報発信を強化する余地があることを示します。

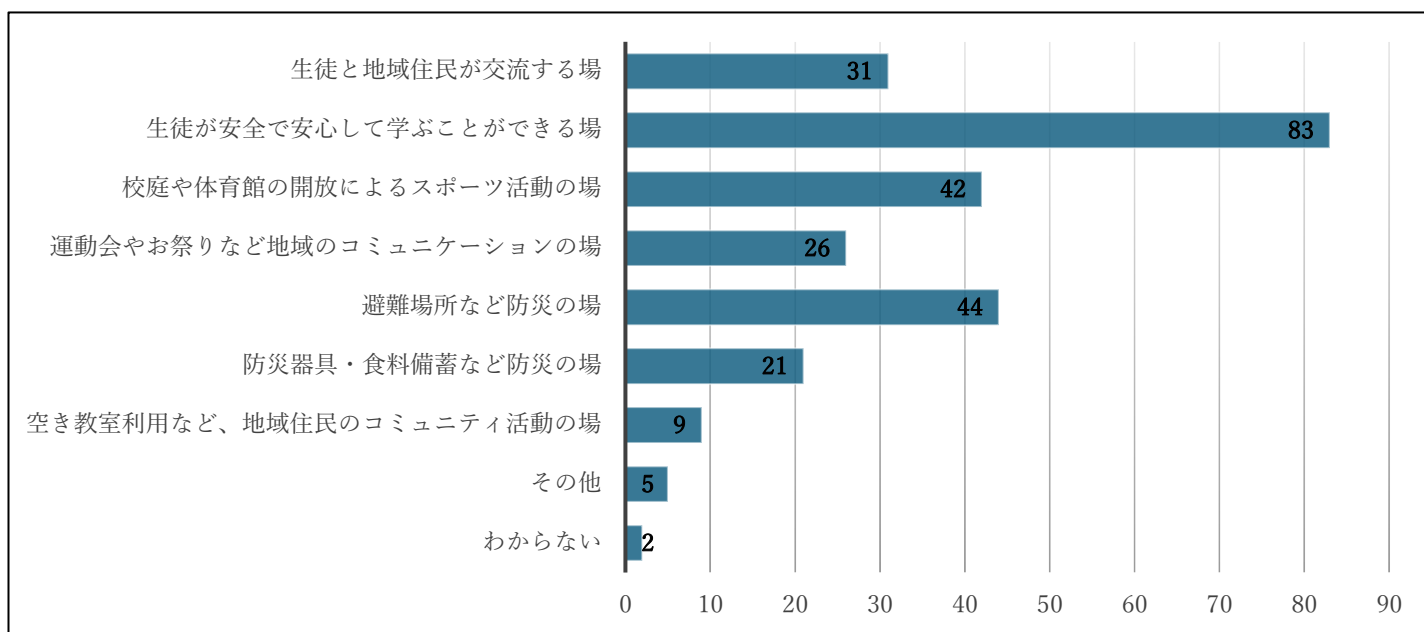


■問17 自由意見

○回答できるほどわかりません

問１８ あなたの地域（勤務されている地域）にある中学校の役割として、どのようなことをお考えですか。

アンケートを見ると、地域が中学校に一番求めているのは「安全で安心して学べる場」（83件）です。次に多いのは「防災の拠点」（避難場所44件・備蓄21件）と「スポーツ活動の場」（校庭や体育館の開放42件）で、ふだんも災害時も地域を支える場所として期待されています。また、「児童と地域住民の交流の場」（31件）や「運動会・お祭りなどのコミュニケーションの場」（26件）も求められており、多世代が集まるハブとしての役割が見えます。「空き教室の活用」（9件）は少数ですが、施設を有効に使いたいという声もあります。まとめると、中学校には①安心して学べる環境づくり、②施設開放による健康づくりと交流、③災害に備える機能の強化、の3点が特に大切です。



■問１８ 自由意見

○地域の文化の拠点活動の中心地

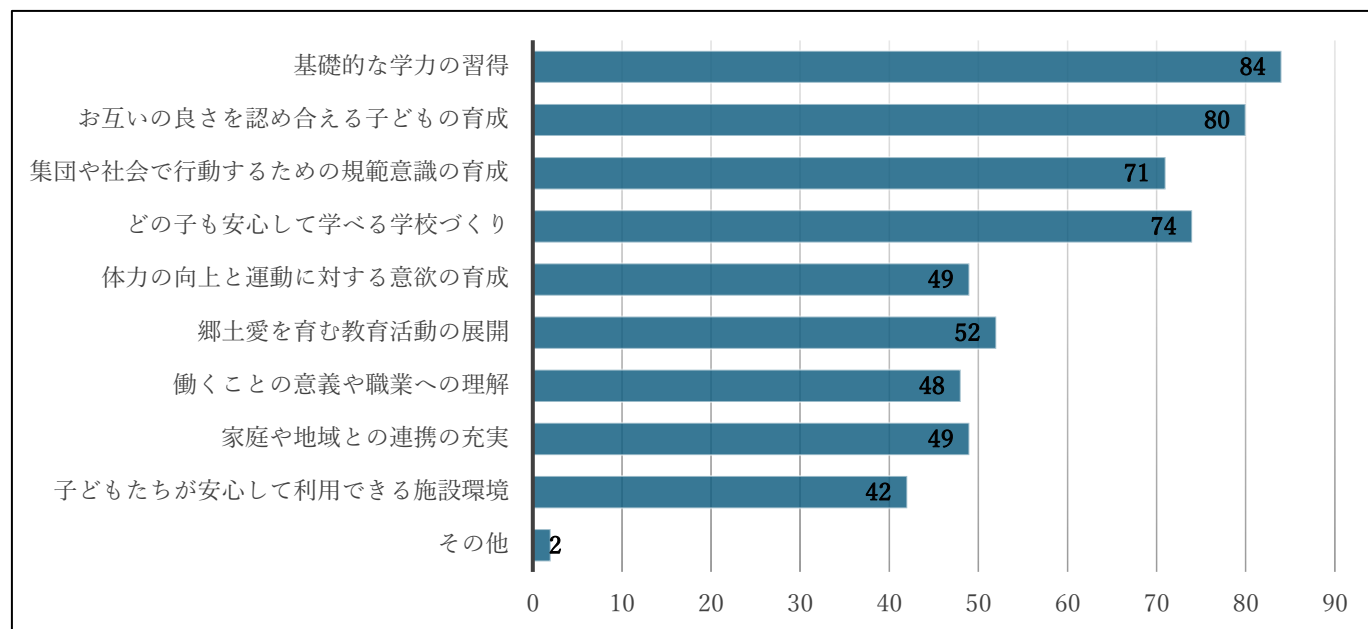
○地域や地域の人々から学ぶことができる場

問１９ これからの大台町立の中学校教育において、大切だと思われることは何ですか。

アンケートを見ると、まず重視されているのは「基礎的な学力の習得（84件）」です。次に多かったのは「お互いの良さを認め合える子どもの育成（80件）」と「どの子ども安心して学べる学校づくり（74件）」で、安心して通える、思いやりのある学校を望む声が強いことが分かります。「集団や社会で行動するための規範意識（71件）」も高く、あいさつやルールを守る力の育成が求められています。

そのほかでは、「郷土愛を育む学び（52件）」が中位で、地域に根ざした教育への期待が見られます。「体力の向上と運動への意欲（49件）」や「家庭・地域との連携（49件）」「働くことの意義や職業理解（48件）」も一定のニーズがありますが、優先度はやや下がります。「子どもたちが安心して使える施設環境（42件）」は相対的に少ないものの、学びを支える基盤として無視できません。

まとめると、これからの大台町の中学校教育では、学力の底上げを土台に、安心安全で互いを尊重する人間関係づくりと、基本的なルール・マナーの育成を中心に進め、地域学習や体力づくり、進路・職業理解、家庭・地域との連携をバランスよく強化していくことが大切です。



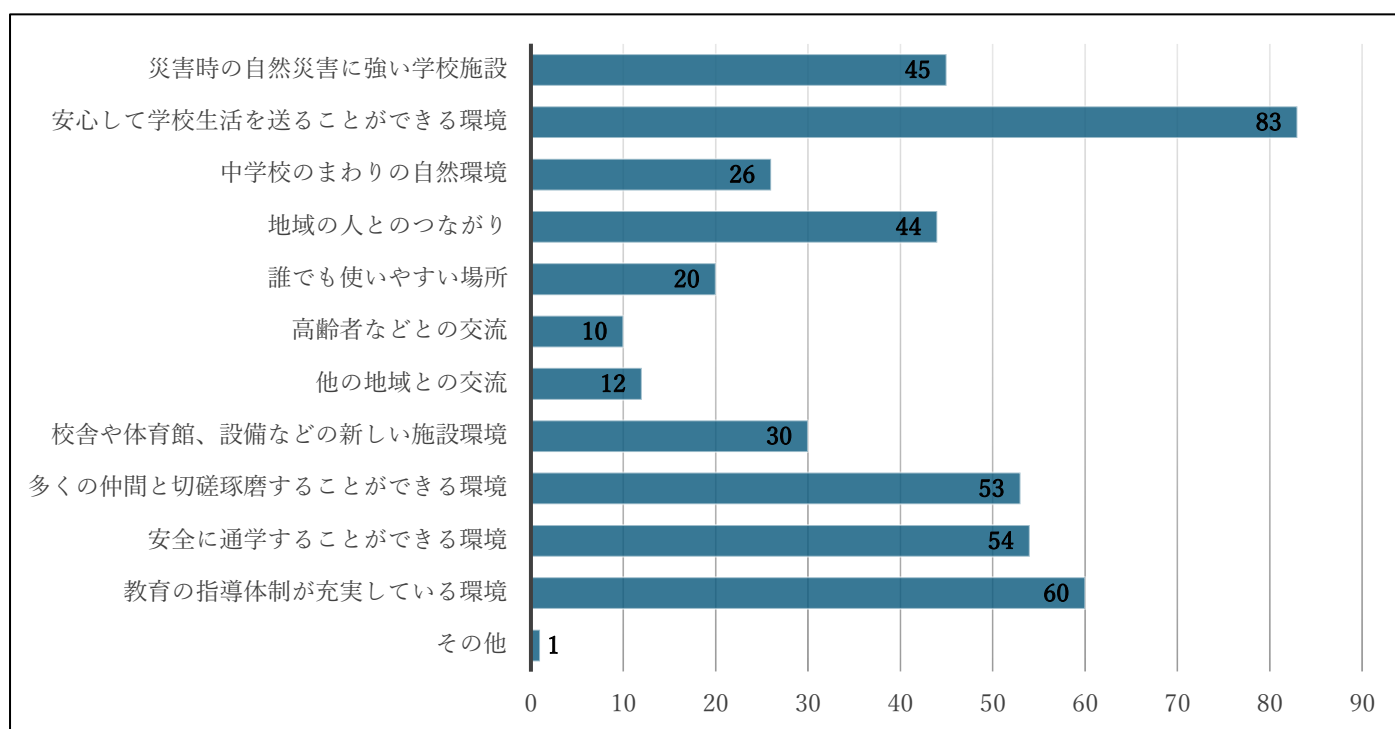
■問１９ 自由意見

○適切な通学時間・距離

○地域の文化拠点としての教育活動

問20 子どもたちのより良い教育環境を考えた時、特に大切にすべきだと考えていることは何ですか。

アンケートでは、最も多かったのが「安心して学校生活を送れる環境」(83件)でした。次に「教育の指導体制が充実している」(60件)、「安全に進学できる」(54件)、「多くの仲間と切磋琢磨できる」(53件)が続きます。まず、毎日の安全・安心が学びの土台であり、いじめ対策や見守り、相談しやすい体制づくりが強く求められています。あわせて、教員の配置や専門性、少人数指導など、授業の質を高める取り組みも重要です。進学の「安全」は、通学の安全、学力保障、情報提供などを含む総合的な支援が必要という意味合いです。仲間と学び合う環境への期待は、学年や学校を越えた交流、共同学習の機会づくりで応えられます。さらに、「災害に強い施設」(45件)、「地域とのつながり」(44件)、「新しい施設環境」(30件)も大切ですが、まずは安心・学びの体制を優先し、計画的に整備・連携を進めることが望まれます。

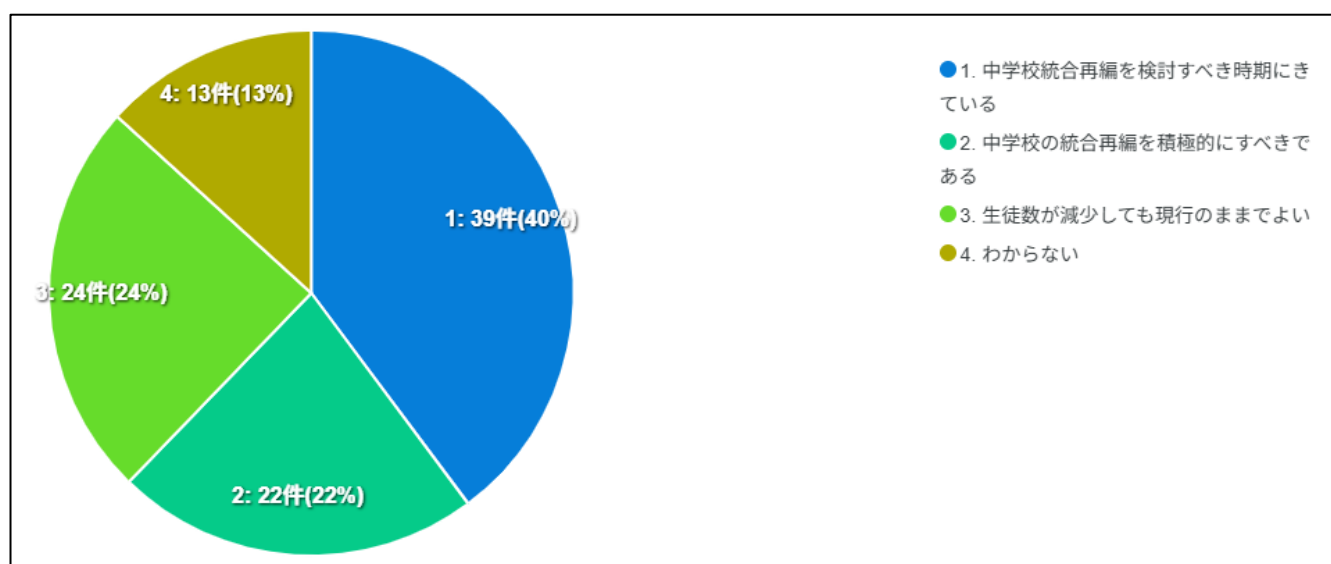


■問20 自由意見

○スポーツや最先端の教育にふれることのできる場

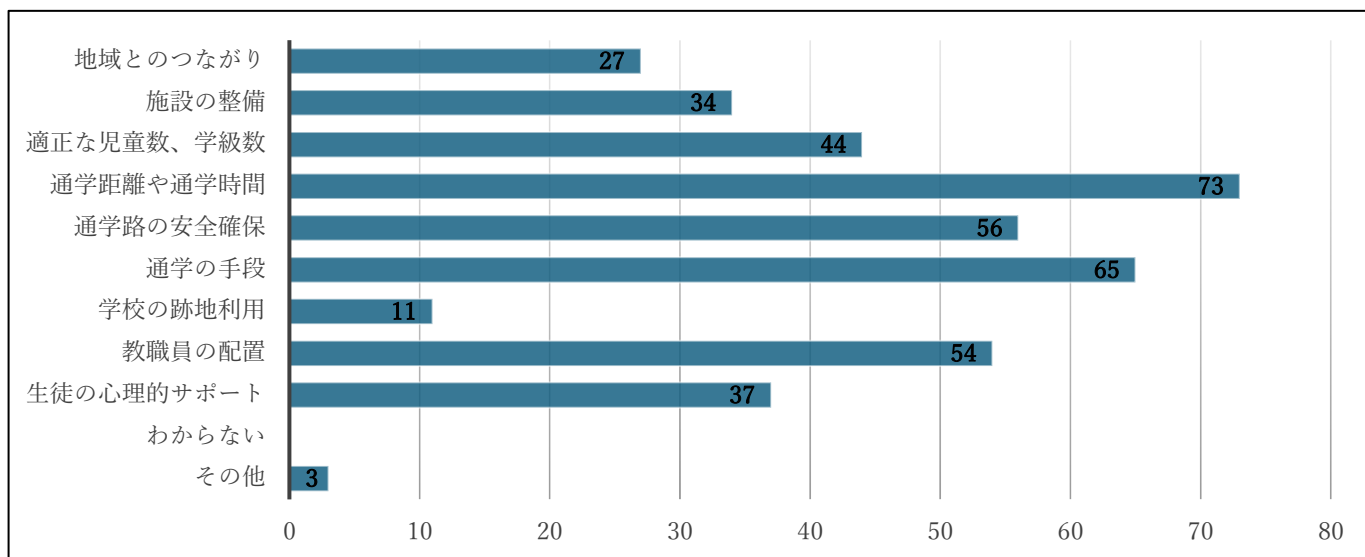
問2 1 町内の中学校の生徒数が減少しています。生徒数の減少への対応として、望ましいと思われるものはどれですか。

アンケートでは、生徒数減少への対応として「統合再編を検討すべき」が39件で最も多く、「積極的に統合すべき」が22件でした。合わせると61件となり、多くの人が何らかの統合の必要性を感じています。一方で「現行のままでよい」も24件あり、地域性や通学距離への不安がうかがえます。「わからない」13件は情報不足が理由と考えられます。結論としては、拙速な統合ではなく、まずは合同授業や部活動の連携を試し、スクールバスなど通学支援を整えたうえで、統合後の教育の姿を丁寧に示し、住民と一緒に方向性を決めていくことが望まれます。



問２２ もしも中学校が統合されとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

アンケートを見ると、統合で一番心配されているのは「通学」です。とくに通学時間や距離（73件）、通学の手段（65件）、通学路の安全（56件）への要望が多く、毎日の負担を減らし、安全に通える仕組みづくりが最優先だと分かります。次に、学びの質を守るための体制も重視されています。教職員の配置（54件）や、児童数・学級数の適正化（44件）に関心が集まり、統合後も一人ひとりに目が行き届く学校運営が求められています。環境の変化に不安を感じる子も想定され、心理的サポート（37件）の充実も必要です。施設の整備（34件）は、快適で学びやすい校舎や設備への期待を示します。地域とのつながり（27件）は件数は少なめですが、統合で薄れやすいため意識的な取り組みが欠かせません。学校の跡地利用（11件）は優先度は低いものの、地域の活性化に生かす視点で計画的に検討するとよいでしょう。



■問２２ 自由意見

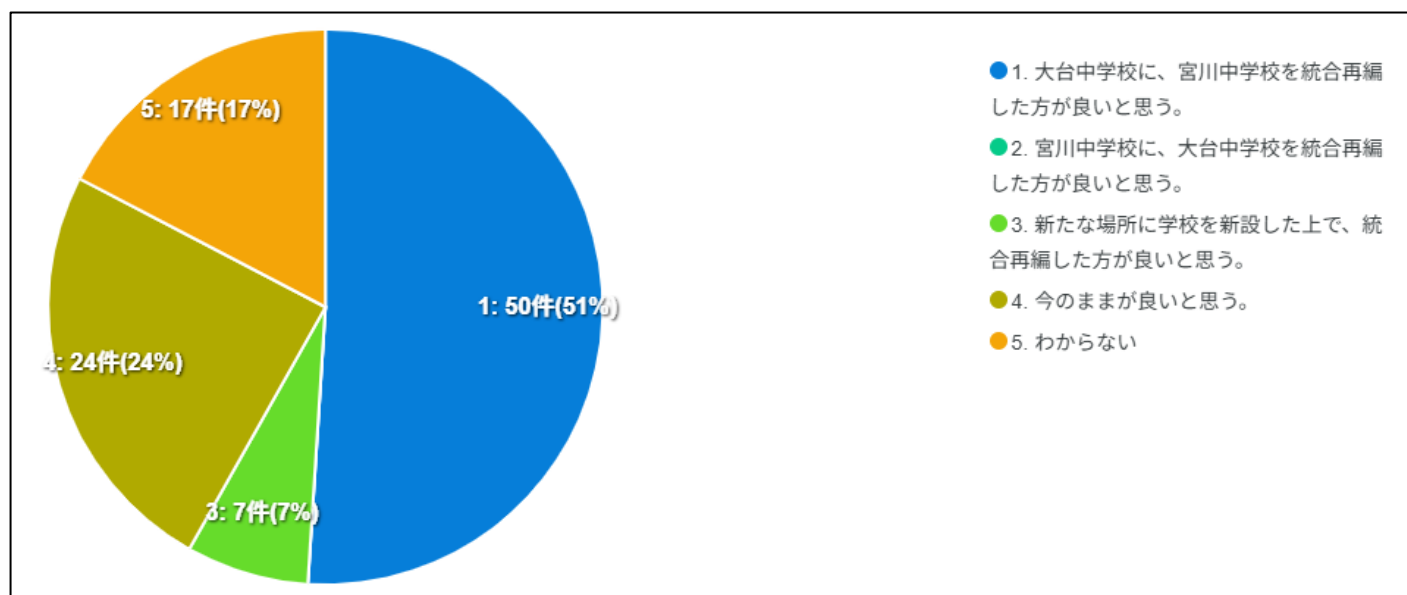
○スクールバス運転手の確保、コミュニティスクールの設置

○クラブ・学力向上等の充実

○小と中を別々に考えるのではなく、また、学校だけを切り離して考えるのではなく、街づくり、今後の大台町の在り方等も、含めて総合的に考えるべき課題であると思う。今後、校舎を新築するとしても、単に学校を教育だけの場として考えるのではなく、防災拠点として、地域コミュニティの中核として、また、高齢者や乳幼児、障害者など全ての町民のための場にしていく必要がある。

問23 もしも中学校が統合再編されとした場合、大台町全体のことを考えた時や通学距離などを考えた時、今後の中学校をどのように統合再編することが望ましいと思われますか。

アンケートでは「宮川中を大台中へ統合」が50件で最多でした。「今のまま」は24件、「新しい場所に新設して統合」は7件、「わからない」は17件、「大台中を宮川中へ統合」は0件でした。多くの人が大台中への集約を望むのは、通学のしやすさや設備・人員の充実が期待できるからと考えられます。一方、「今のまま」は地域のつながりや通学負担への不安が背景でしょう。「新設校」は公平性の面で魅力がある反面、費用が大きな課題です。「わからない」も一定数あるため、統合で何が良くなるのか、通学手段の確保、安全対策、校舎の今後などを具体的に示し、丁寧に説明していくことが大切です。



問24 Q23で選んだ理由を教えてください。

(わからない)

- 今ある施設を使うことを前提にした方がいいと思う。子どもの人数が減少していくなかで、一人ひとりも大事にしつつ、いろいろな人と出会う機会はとても大切だと思うので、人数は多い方がいいと思う…その分いろいろな先生とも出会える。大台中学校を拠点にして、宮川中学校を課外授業や、地域活動の場にして利用していくなど、地域の人との関わりも大切にするような学校のあり方を模索していけたらいいのと思う。
- 多くの仲間ができて良いと思うが反面、通学距離が遠くなる分（宮川地区）、これまでに以上に部活時間の十分な確保が難しいのではないかと不安もある。
- 宮川中学校の生徒数を考えると生徒活動に支障をきたすこともあるため統合したほうがよいように思われる。一方で宮川と大台では距離的に厳しい面もあり、荒天時の安全確保にも注意を払う必要があるため、統合すべきとは一概には言えない。
- どちらかの中学校に統合再編となると、地域の方の思いもあると思う。
- どちらがいいのかわからない。
- 宮川地区、大台地区の距離が広すぎて保護者、生徒の負担がどのようなものになるかわからないため。
- 地域、地区ごとの町民の方の考えがあるから。
- 宮川から大台中までバスでも片道1時間かかると聞いたので、通学距離の問題が発生すると考えられる。通学時間に時間を費やすのは、学業や運動にも支障をきたすと思われるので、地理的に統合は難しいように思う。
- 大台町の学校での勤務が浅いため、学校や地域の実情をしっかりと把握していないため。
- 町外在住なので簡単に回答できる内容ではないから。
- それぞれの中学校が今の形になった経緯などについてよく知らないから。
- 小規模校の良し悪し、統合することの良し悪し、色々あると思うから。

(今のままがいい)

- 大台町は面積が広く、1町1中となると、通学時間が長すぎる子どもが出てきます。義務教育の目的を実現するために、長すぎる通学時間は、少なからず妨げになり、さまざまな問題を引き起こす要因を生むと懸念します。
- 毎日の通学距離の事を考えると、どちらかの学校に統合するのは、子どもの負担が大きい事が予想されるため。
- 宮川小中が義務教育学校や小中一貫校となるということを前提にした意見である。また、宮川小中を学びの多様化学校や特認校として、少人数でも特色ある教育を展開する学校として、魅力を高めたり、存在意義を高めたりすることも併せて検討しなければならない。
- 宮川から大台は通学が遠い。また、宮川中学校ならではの地域性があると思うので、残してほしい。

- 統合した場合、通学時間が大幅にのびる子どもたちが出てくると思います。バスで対応できるのかもしれませんが、登校や下校時間がかかるのは、子どもたちにとって負担にならないでしょうか。
- 宮川中学校の生徒人数が減少していることは理解しているが、大台中学校に統合した場合、宮川中学校の生徒の通学距離が遠くなりすぎることが考えられるからです。
- 通学距離が長い。家庭訪問等が大変。クラブでのバスが出しにくい。
- それぞれの良さがあり、統合することが最善だとは思わないから。少人数だからこそできること、身につくこともあると思うから。
- 通学距離が長くなり、生徒、家庭の負担が増えるため。小規模校ではあるが、現状の学校のそれぞれの生徒は、現地域の学校で、充分頑張って、成果を出している。小規模校の良さを益々伸ばせばせればと思う。
- 通学時間が毎日2時間という生徒もいる中での統合は考えにくい。
- 地域から学校がなくなると、さらに地域の活気が失われると考えるので、地域に学校を残すことが大切と思う。また、大台町は広大であるため、中学校を統合した場合、通学時間が長くなりすぎたり、地域とのつながりが失われたりしてしまうと考える。2中学校の現状を維持するのがよいと考える。もし、統合するならば、小中を統合し、義務教育学校としてでも、学校を残すことがよいと考える。
- 大杉方面など、現在でも通学に時間を要している生徒がいるなか、これ以上遠方の学校への通学は生徒・家庭双方への負担が大きいように感じる。
- バス通学の生徒がこれ以上の早い時間での通学の困難。自転車通学で体力がつけれる現状の生徒もバス通学になること。
- あまりにも広範囲すぎると思う。登校時間も下校時間も長くなる。乗り遅れたらどうするのか、バス酔いする子がいる場合、長い距離を毎日乗るのはストレスになるのではないかな。

（新たな場所に学校を新設した上で、統合再編した方がよいと思う）

- 大台中に土砂災害等の被害が予想される以上、大台町の中心地域の災害の起きない場所に学校を新設するのが理想なのかも知れない。
- 子どもたちや保護者の方の気持ちを考慮した時、新しい場所に新設するのがよいと思います。大台中学校の校舎はまだまだ使用できるが、30年以上になってきたため、統合するのであれば新設もありだと思います。
- 費用はかかるが、宮川地域からの通学時間を考えると全距離の中間地ぐらいに学校があるとよい。そうすれば、どの中学校も納得できるのではないかな？そして、大台中学校の跡地に、小学校を移転すればよい。今の、三瀬谷小学校は老朽化しているので、2校を新しくするよりかは費用対効果があるのではないかな？
- 宮川中では位置的に偏りが大きい。大台中は裏山が土砂災害の危険性があるため、災害が発生した時に生徒たちを学校に待機させて安全を確保することが難しいから、そのような心配のない場所に新たに校舎を構える方がよいと考えた。
- 通学距離などを考えると、別の場所の方が負担が少なくなるのではないかなと感じたため。

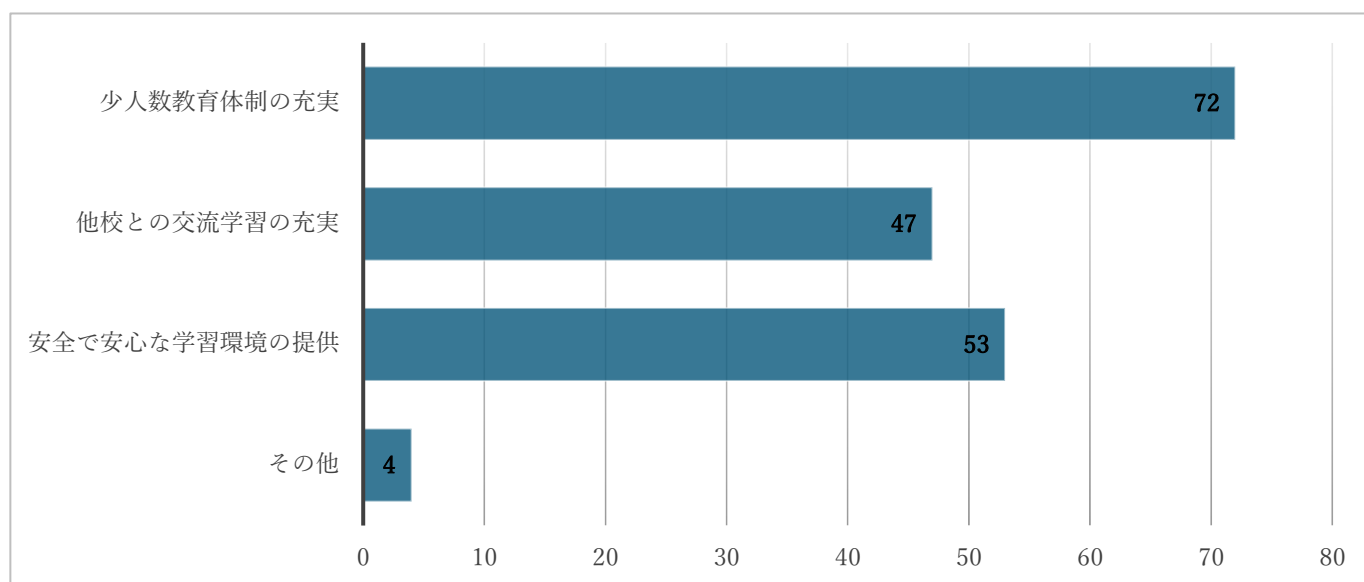
(大台中学校に、宮川中学校を統合再編した方が良いと思う)

- 大台中学校が開校してから 30 年程度した経過しておらず、まだ学校施設として利用できるのではないかと考えるため。役場や教育委員会、警察、病院、図書館など主要インフラが揃っている、大台中学校が望ましい。
- 大台中学校は、施設設備がまだ比較的に新しいこと。大台町のほぼ真ん中の位置にあること。
- 日進地区からと宮川地区から距離を考えると、その中間あたりに大台中があるため。
- 大台中学校の方が役場に近く、住んでいる人口も多いと思うから。
- 通学時間や学校周辺の環境を考えると、大台中学校の方が立地的に良いと思う。
- 土砂崩れなどあったときに宮川だと孤立してしまう可能性もあるから。
- 土地、予算があるのであれば、新たな場所への新設がよいと思う。通学のしやすさ、安全面で考えると、現大台中学校が現実的だと思う。
- 通学距離を考えると、2 つにした方が良いが、今後の子どもの数を考えると 1 つにした方が良いと思う。
- 宮川中に大台中を統合再編すると、日進地区からの登校児童の通学距離が伸びるから。
- 校舎が新しい。改築しなくてもそのまま使えそう。→お金をかけなくて済む。宮中だと古いので、お金がかかりそう。
- 大台中の方が高台にあり、災害時は良いが、普段の登下校に宮川の子たちはかなり時間がかかるとなると。新設するべきなのかもしれないが、お金のこともあるので難しいと思う。
- 旧宮川の端、日進地区の端を考えた時にちょうどいい距離だと思うから。
- 通学距離の問題を感じるが、学校活動のしやすさを総合的に考えて。
- 人数が少ないので、移動が少なくて済む。大人数が通学で移動するのは難しい。
- 校舎を新しくするには予算がかかる。宮川中学校だと通学距離が遠くなる生徒が多い。
- 宮川中学校は、校舎が建ってからだいぶ年月が経っているので、大台中と一緒にするといいと思います。しかし、大杉地区の子どもたちの通学時間が気になるところです。通学で疲れるかもしれません。
- 生徒数を考えたとき、設備が大きな方の学校に統合した方がよいと思うから。
- 大きな道路が近くにあるのは大台中学校であり、避難経路として活用するならばこちらの方が良いと考えたから。
- 適正規模や今後の生徒数を勘案すると、大台中学校への統合再編が良いと思う。通学距離は気にはなるが、小学生よりは中学生の負担は小さいと考える。
- 大台中学校はすでに統合済みのため、人数の少ない宮川が統合する方がよいと思う。
- 宮川地区のことを考えるとできるだけ今のままの方が良いが将来的に継続が難しいとなると、中間地点の三瀬谷地区に中学校を統合再編される方が通学距離に負担が少ないと思う。
- 安易に統合するのは反対だが、宮川中の生徒数が少なくなっている中、考えていかなければならない時期になってきている。だが、もし統合するなら、校舎が新しく、キャパもある大台中に宮川中が統合するのが現実的だと思う。
- 大台町 1 校に統合した方が良い。切磋琢磨して学びができるから良いと思う。

- 災害などを考えたときに大台中学校に再編をした方が良いと思う。
- 現実的に考えると妥当に思うが、大杉の子達の不利を少しでも改善できないか、考えるべき。
- 中学校は、今後の社会性を身につける為にも、統合がいいのではないかと感じる。
- 大台中学校は 1994 年に開校し、過去にも協和中学校を統合した実績があり、統合受け入れの体制が整っていると考えるから。

問25 もしも中学校が統合再編されずに現行のままとした場合、特に重視すべきことは何ですか。

アンケートでは、「少人数教育の充実」が最も多く（72件）求められました。少人数なら、先生が一人ひとりを丁寧に見られ、つまずきの早期発見や学習意欲の向上につながります。次に多かったのは「安全で安心な学習環境」（53件）です。通学路の安全、校舎の老朽化対策、防災・防犯、そしてICT利用時のルールづくりなど、日々の安心を高める取り組みが必要です。「他校との交流学习」（47件）も重視されています。少人数では出会う人や活動の幅が限られがちのため、合同授業や共同の部活動、オンライン交流で学びと友だちの輪を広げることが期待されています。以上から、現行の体制を続けるなら、少人数の良さを生かす教員体制づくり、安全対策の強化、計画的な交流の仕組みづくりを同時に進めることが重要です。



■問25 自由意見

- スクールバス運転手の確保
- クラブ活動、学力向上、キャリア教育等の充実
- 臨時教員ではなく、正規の教職員を配置すること。

■問26 自由意見

- 複式学級については、出来れば避けたいと思います。特に中学校については、3年後には何百人という生徒が通う高校に進学する子が多いと思いますし、町外の学校に通う子もいると思います。いろいろな変化に対応できる力をつけてほしいと願います。
- 情報技術の発展により、オンラインでの交流学习が可能な現在、人数にこだわった学校設置ではなく、通学距離・時間を重視した設置を考えてほしいです。
- 義務教育学校の設置も検討してはどうでしょうか。県内でも、設置が予定されている地域があり、視察校が増えてくると思います。
- どの形態で設置したとしても、課題や問題点は残るので、子どもの発達段階や成長を重視した設置を考えてほしいです。義務教育期間は、生涯の基礎となる大切な期間だと思います。
- このようなアンケートで、町内の子育て家庭や教職員など、実際に携わっている方に意見を聞き、子どもたちのより良い教育環境について考えていくのはとても良いことだと思います。
- 過疎化が進むことで、いろいろな制限が出てきている。小・中学校に限らず町全体から学校統合問題を考えていって欲しい。
- 該当地域の児童・生徒、保護者、地域、教職員の思いを充分汲み取っていただき、今後の小学校、中学校の在り方を考えていただければと思います。
- 現在、旧大台地区と旧宮川地区で大雨時の対応が異なっている。宮川では大雨警報でも休校措置をとるが、大台では暴風警報まで行かなければ休校とならない。授業数確保の観点からは休校が増えることは望ましくないが、生徒の安全等を考えた場合どうすべきか。統合を進めていくのであれば、入念に検討していただきたい。
- 現段階で考えると、施設、設備の老朽化が心配です。子どもの安全を考えると、必要不可欠です。統合することで、そこは解消されると思いますが、通学距離を考えると負担が大きいと思います。災害の事も考えると、今の場所も検討する必要があると思います。
- 今自分が教育職について、学校の先生方特に小学校での複式学級での授業など難しかったとは思いますが、とても良くしていただいていたんだと実感しています。大台町でしかない少人数での充実した授業、自然豊かな地に触れることのできる素敵な環境を活かしてもらえたら嬉しいなと思います。教育現場だけでは限界があるかとは思いますが、小学校や中学校を経て人数の多い学校に行く子も居て、その際に圧倒されることはあっても、自分はこういう所を活かして頑張ろう！自分にはこんないい所がある！自分はこれでいいんだ！という気持ちを持てるように関わっていただけたら幸いです。
- 子どもが減少する中、切磋琢磨する環境も減っていつているので、我が子の将来も心配。少人数で、手厚いサポートを受けられていても、大人数で揉まれて、今のうちに社会で生きる力を身に付けて欲しい。後の人生で、挫折するより、立ち直る力を今のうちに、小さいうちに身につけられればと思い、統合を積極的に支持します。
- 小さい頃から育ってきた大台町の子どもたちが安全で楽しく過ごせたらいいなと思う。自分が通った宮川小学校や中学校は無くなって欲しくない気持ちはあるが、子どもが少なくなっているため、なくなっても仕方ない部分もあるなと思う。

- 少子化、過疎化の問題に対して、どのような問題解決方法があるのか、考えていくところだと思います。地域と教育現場との連携、町おこし、町づくりなど。
- 子どもたちのことをよく考えて、決めてほしいと思います。
- 進めていくなら計画的に早めに進めてほしい。統合する、しないと行ったり来たりの状態が続いているので。
- 人口減少は日本全体の課題であり、小中学校の統廃合も全国各地で進んでいる。本町においても現状のままでは限界が来ていることは明白である。多くの学校で校舎の老朽化も進んでおり、校舎建設や統廃合も不可避である。一方で、教育の視点、都合だけで統廃合を進めることは危険である。街の未来を、今後の街づくりを、住民の福祉や暮らしをどうしていくのかという大きなビジョンのもとで、統廃合や校舎の在り方(コミュニティセンターや防災拠点、図書館機能を兼ねる等々)を検討していきたい。数十億の予算をかけて、教育の機能だけがある学校は、過疎化が進み財政状況の厳しい町には必要ない考える。
- 人数が少なすぎると活動に制限があり、子どもたちが様々な活動ができない。
- 卒業生や在校生の意見も広く聞いていただきたいと思います。
- 大台町全体で、大台町の文化継承などを地域の方と取り組めるような、連帯感のある街になって欲しいと思うので、小中学校からの取り組みをした方がいいと感じる。
- 地域の文化・生活の拠点としての学校のあり方をもっと探るべきで、大台町に住みたいと思えるための施策の推進を町あげて(学校も)進めるべき。
- 統合といえば聞こえは良いが、実際は廃校であり、少子化により地域からなくなるのは仕方ないとは言え、さらなる地域の衰退につながるのではないかと思う。なるべく学校を残す方が良く思う。
- 統合について考える時期に来ていると考える。ぜひ積極的な議論、計画をお願いしたい。
- 勉強やスポーツ、友だちとの関わりなど、子どもたちにとって、充実した学びの場であってほしい。
- 保護者や子どもたちがどのように思っているのかを知りたいし、子どもや保護者の意見を尊重してもらいたい。
- 本校だけかもしれないが、子どもたちの規範意識が低い子が多い。穏やかな子が多いからこそのかもしれないが、これから社会へ出ることを考えると個人に合わせた指導も必要だが、ルールを守ることも重視して教育にあたる必要もあるように感じる。今年からきたばかりで何も言えませんが、感じています。
- 目先の人数減少もあるが、10年、15年先だともっと減少するため、ゆくゆくは中学校の統合はやむを得ない。小学校について、宮川地区と旧大台地区は統合するのは通学距離(バス停までの通学距離もある)があり、小学生にはかなりの負担になり、難しいように思う。